

昨今、英語教育の充実が小学校教育レベルでも盛んに議論されている中、本校が人材を送り出している航空宇宙産業においても英語能力は必要です。従って、多くの企業が就職条件において一定水準以上の英語能力を求めています。

なぜ必要かというと、航空宇宙産業の先進国は米国を中心とした欧米諸国であり、その知識や技術の多くは輸入されたものであることから、文献やマニュアルが英語で書かれているためです。

例えば、大型旅客機を製造しているのは米国の



教育における英語の必要性

中日本航空専門学校長 磯本聡一

ボーイング社とEUの整備士などは自社の航空機アバス社が有名ですが、設計書や製造指示書類は全て英語で書かれています。最新鋭のボーイング787は日本企業がその35%を分担して製造しているのですが、日本の工場でも英語で書かれたマニュアルをもとに仕事をしなければなりません。

本校で人気のある航空整備士の世界でも英語は必須です。航空機の整備は航空機メーカーが英語で作成したメンテナンスマニュアルに基づいて作業をしなければいけません。JALやANAの整備士などは自社の航空機アバス社が有名ですが、設計書や製造指示書類は全て英語で書かれています。最新鋭のボーイング787は日本企業がその35%を分担して製造しているのですが、日本の工場でも英語で書かれたマニュアルをもとに仕事をしなければなりません。

本校で人気のある航空整備士の世界でも英語は必須です。航空機の整備は航空機メーカーが英語で作成したメンテナンスマニュアルに基づいて作業をしなければいけません。JALやANAの整備士などは自社の航空機アバス社が有名ですが、設計書や製造指示書類は全て英語で書かれています。最新鋭のボーイング787は日本企業がその35%を分担して製造しているのですが、日本の工場でも英語で書かれたマニュアルをもとに仕事をしなければなりません。